

浜松協働学舎 支える会だより

〒433-8108 浜松市北区根洗町 681 番地の5 ☎053-430-0596
浜松協働学舎を支える会 代表 小林琴代

2017.12.15

no.61

—地域に支えられ浜松協働学舎根洗寮は 20 周年を迎えました—



ありがとう

20 周年

これからも、ともに歩みます



浜松協働学舎根洗寮二十年の歩み

「ありがとうの感謝と新たなスタート」

寮長 大橋奈実世

二十年を迎えて

「親亡きあと」の居住の場を親御さんが元気なうちに作るうという願いから、新たな居場所として開設された根洗寮が二十周年を迎えました。この二十周年を記念し、十月十二日、浜松グランドホテルにて記念式典及び記念パーティーを開催いたしました。

当日は、ご利用者の皆さんはスーツにネクタイ、スカート等をお洒落に着こなし、大変落ちついた様子で参加され、おかげ様をもちまして、盛大かつ和やかな雰囲気の中に式典やパーティーを進めることができました。これまでの軌跡を振り返ってみれば、今日を迎えることができましたのも、多くの方々の温かいご指導、ご支援のお陰と心から感謝申し上げます。

全室個室・ユニットケア・職住分離の暮らしを実現

平成九年十月、すべてのご利用者に個室を確保することで、ご利用者の個性やプライバシーを尊重しよう、生きがいを持って働ける場を保障した「職住分離」という



生活スタイルの中で地域社会に積極的に参加しよう、また大規模な集団生活ではなく少人数のユニット単位で生活すること、より家庭的な生活を送ろう…と夢を膨らませ、根洗寮は「全室個室」「職住分離」「ユニットケア」を取り入れ、これまでになく新しいタイ

プの住まいとしてスタートしました。

朝、身支度を整えようと日中は作業所に出掛け、夕方帰宅します。それは、私たちが家から学校や会社へ行き、また帰宅することと同様であり、ごく普通の当たり前の生活スタイルなのですが、当時の入所施設ではこのような取り組みをしているところは少なく、この取り組みは先駆的なものでした。

根洗寮で生活しているご利用者は、日中は「根洗作業所」「青葉の家」「工房だん」「ぱったん」に通い、それぞれ製菓や陶芸、下請け作業、木工、機織り作業に励みました。そして平成十一年、新たな活動場所として「工房めい」が新築され、他施設で活動していた方が異動し、日中活動は「工房だん・工房めい」が主となりました。平成二十年には、プレハブ棟だった工房だんを重度重複障がいのある方と強度行動障害のある方に特化した入浴設備や個室を備えた建物に再編新築。平成二十二年には工房めいを増築し、手作りせんべいの生産を開始し、日中活動の場は一層充実してきました。

安心できる居場所として

一方住まいは、開設当初は入所者の半分は浜松協働学舎の施設に通っていた人たちで、半分は児童施設や措置入所で、本人の希望ではなく入所された方たちでした。突然生活環境が変わったことで不安で落ち着かない日々



がしばらく続きました。永年在宅で生活されていた人たちは、「お家に帰りたい」「どうして帰れないの?」と会話が出来た人たちは訴え、言葉に表せない人たちは不眠になったり体調を崩す方もいました。親や関係者の願いでつくられた施設での生活に、ご本人たちは戸惑うこともあったと思いますが、職員との関わりの中で徐々に居場所がつくられていきました。

根洗寮から地域移行へ

平成十一年のグループホーム・ラポール根洗開設から地域移行も始まり、平成十七年に「自活訓練ホーム・すてっぷ」を湖東町に開設し、翌年にはグループホームとして運営することになりました。さらに平成二十一年にはグループホーム・ほっぷ(旧ケアホーム・ほっぷ)、平成二十四年にはラポール根洗の後の建物を利用してグループホームぱれっと(旧ケアホームぱれっと)を開設。この二十年の間に四十人が地域生活に移行することができました。

平成二十六年には新たに西区に生活介護事業所とグループホームを開設。根洗寮を拠点として、この二十年で数多くの事業展開がなされていきました。

在宅障がい者の支援

現在根洗寮では、入所者の安心できる暮らしとともに地域と密着した暮らしを目指し、在宅の人のための短期入所事業や相談支援に力を入れています。短期入所・日中一時支援の利用希望は増加しています。地域で暮らす人たちも安心してサービスを受ける



れるよう支援の質の向上に励んでいます。

家族との絆を大切に

また、家族とのつながりも大切にしています。施設で生活していても家族は特別な存在です。年々、親御さんは高齢になり帰省は難しくなっていますが、ご家族には面会の機会を設けたり、レクリエーションや行事に参加していただき、これからもともに過ごす時間と家族の絆を大切にしていきたいと思っています。

ともに生きた歩み

二十年の節目を迎え、共に過ごしてきた日々を振り返ってみると、様々な情景がまぶたに浮かびます。「もう二十年になるのか」と、先日古いアルバムを久しぶりに開いてみたら、そこには思い出がいっぱいつまっています。自分の人生の半分は皆さんと過ごしているんだと改めて感じました。

二十年の間には多くの出会いと別れがありました。建物が増えていく度に新しい仲間が増える一方、悲しい別れの中で私たちに生きることの意味を教えてくださいました。一緒に笑ったこと、辛さを分かち合ったこと、



ご利用者の言葉や笑顔に励まされ支えて頂いたこと。私たちは、日々の関わりの中で、ご利用者が迷ったときは少し前を歩き導いたり、時には後ろに立って背中を押してあげたり、また、ただ隣にいて寄り添い見守ったりしてきましたが、逆にご利用



者の皆様から私たちが教えて頂いたこともたくさんありました。気が付けば、ご利用者の生活を支えているのではなく、私たちが支えられていたように思います。

新しいスタートの年として

また、この二十年の間には制度にも変化がありました。しかし、制度は変わっても私たちの支援の基本はこれからも変わることなく、共感の気持ちで大切に歩んでいきたいと思っています。そして、根洗寮が「ともに支え合い、分かち合える存在がいる居心地のいい場」であり、ご利用者の皆様はもちろん、今まで大切に育ててこられたご家族、地域で暮らす方にとっても、安心していただける場所であり続けられるよう努めていきたいと思っています。そのために、私たちはこれから先も大切な命をお預りするというこの仕事の重みを感じながら、同時に「願い」が叶えられるようひとりひとりの声に耳を傾けていきたいと思っています。

今後は、ご利用者の高齢化への対応、これからの入所施設のあり方の見直しなど、地域生活拠点としての取り組み等新たな課題も生じてきますが、ご家族や地域の方々、関係機関との連携を密にしながら、職員一同力を合わせて、法人訓として掲げる「喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい」の言葉の示す如く、「受容と共感」の姿勢を何よりも大切にして、障がいのある人たちへの福祉援助の活動を続けていきたいと思っています。根洗寮にとっても一つの節目を迎えるこの年を新たなスタートの年とし、これまでの伝統を受け継ぎながら、これからもみなさんとともに歩んでいければと願っています。



浜松協働学舎親の会 福祉講演会を開催しました。

平成二十九年年度浜松協働学舎親の会福祉講演会を十一月十五日（水）、あいホールにて開催しました。「地域で在宅生活を送るための必要な医療とのつながり」とのテーマで、浜松市発達医療総合福祉センターの小児科医、遠藤雄策先生にお話しいただきました。

当日先生からもお話ししていただきましたが、先生と浜松協働学舎の関わりは二十年以上前から、高校・大学時代には、当時行われていた学舎祭やチャリティコンサートでのボランティアとして活動していたというご縁があります。今ではご利用者の中には遠藤先生に診ていただいている方もいらっしゃいます。

国の施策としても地域包括ケアシステムの構築が言われる中、最も大事なことは、地域における在宅医療・看護等の体制であり、それらのことについて先生の実践を交え、分かりやすくお話しをしていただきました。今後、入所施設は増えていくことがなく、



また入所施設での医療的ケアの限界もある中で、障害のある方たちが在宅で長く継続的に暮らし、いくための体制について、我々としても何ができるのか考えていかなければいけないことを改めて痛感しました。

工房ゆう夏祭り ～地域の皆様と共に～

八月十一日（金）、今年で第四回になる「工房ゆう 夏祭り」が、工房ゆうのホールをメイン会場として開催されました。

当日はご利用者とその家族・関係者はもとより、近隣の地域の方も多く参加していただき、盛大に行うことができました。



会場内は所狭しと模擬店が並び、新たなメニューを導入したこともあってか、大賑わいでした。イベントとして都田地区で精力的に活動している遠州地区唯一の子供チーム「Doー夢（ドーム）」をお招きして、「よさこい踊り」を午前と午後の二回に分けて披露して頂きました。出演者と一緒になって踊ったり、流れる音楽に体を左右前後に揺らしたり、力強い手拍子を打つなど、ご利用者それぞれに楽しんでいました。特に後半の部では、会場全体の一体感が強く感じられ、大変な盛り上がりでした。販売ブースでは、ご利用者ご家族から提供された新鮮な野菜・果物・生花の他、工房ゆうの紙製品、工房めいの薄焼き煎餅、しまうま倶楽部のクッキーやシフォンケーキなどの浜松協働学舎オリジナル商品も所狭しと並び、大きな賑わいを見せていました。夏祭りの最後には、豪華景品が当たる『くじ引き抽選会』が開催され、楽しい夏祭りの幕を閉じました。

皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

工房ゆう 梅木芳貴

根洗フェスタ ありがとうございました!!

八月五日（土）、当日は直前まで雨が降っていましたが、皆さんの熱い思いが届いたのか、無事雨も上がり、地元根洗町の夏祭り「根洗フェスタ」に参加することができました。

一曲目に披露したのは星野源の「恋」です。今回はこの曲に合わせて白地のTシャツを揃え、また女性は黄色いスカートを着用して華やかさを演出しました。二曲目は皆さんご存知の「デイズニードレー」、

最後は「ゴジラのテーマ」を演奏しました。ゴジラも応援のため会場に駆けつけ、大いに盛り上がりました。日々の練習の成果を発揮することができ、また会場にいた皆さんにも楽しんで頂けたかと思えます。



演奏後は露店や出し物に参加し、根洗町の皆さんと交流を持つことができました。ご招待いただきました根洗町のご配慮には感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

根洗作業所 坂中夕也

笑顔溢れるスマイル祭

十一月三日（金）、秋晴れの下、今年も根洗寮のスマイル祭が開催されました。今年のテーマは「笑顔100%」、根洗寮を形容する一番分かりやすい言葉ではないでしょうか。

スマイル祭が始まると、すぐに模擬店に駆け込み、お目当ての品を購入される方、音楽に合わせてご機嫌にリズムをとられる方、会場は終始笑顔で溢れていました。

模擬店では多機能事業所「だいち」や「大山ファーム」、「たんぽぽ作業所」といった近隣の事業所、タイからは皆さまの愛と夢を運ぶため「トウクトウク」（タイの三輪タクシー）が駆けつけ、お笑い芸人の「チョメチョメブラザーズ」は、大いに会場を盛り上げてくれました。

今回も、根洗町自治会の方々をはじめ、地域の方々に多数参加していただきました。根洗寮にはどのような方がいて、どのような暮らしをされているかを知っていた、だく良い機会ができたと思います。地域とのつながりを増やし、根洗寮と地域が共に歩んでいける社会を築いていくことが大切だと改めて感じました。

あつという間の一日でしたが、皆さん楽しんでいただけたでしょうか。来年も素晴らしい「スマイル祭」が開催できるよう、職員一同努力して参ります。来年も皆様のお越しを、笑顔でお待ちしております。



浜松協働学舎根洗寮 大石哲也